

「第2次米子市まちづくりビジョン」令和7年度の取組状況等について

○「第2次米子市まちづくりビジョン」の取組状況等については、別添資料1～5のとおりです。多岐にわたりますので、下記のとおり全体の概要をご報告いたします。ご確認、ご議論をいただきますようお願いいたします。

○当該ビジョンは令和7年3月（令和6年度）に改定を行っており、10ヵ年計画の後期計画（令和7～11年度・5ヵ年）の初年度である令和7年度の評価をいただくこととなりますので、その旨ご承知おきください。

1 米子市の人口動向の主なポイント【資料1】

(1) 総人口の推移と少子高齢化の進行

本市の総人口は一貫して減少傾向にあり、ほぼ推計どおり（2050年には約12.4万人まで減少予測）に推移している。2025年には高齢化率が30.5%に達し、少子高齢化が想定どおりのスピードで進行している状況である。

(2) 自然減の要因

本市の出生率や婚姻率は国・県を上回る高い水準を維持している。しかし、出生数の動向に強く影響する「20～39歳の若年女性人口」が5年間で約1割減少し、年間出生数は初めて1,000人を割り込んだ。若者・女性に選ばれるまちづくりや、結婚・出産・子育てを希望する方々を地域全体で支える環境整備が一層求められている。

(3) 社会増減の状況

関東・関西圏への人口流出は依然として続いている。一方で、鳥取県内や島根県からの転入超過に加え、外国籍住民の転入が急増し、2025年は4年ぶりに「社会増（転入超過）」へ転じた。コロナ禍以降の社会減が一旦落ち着くのか、あるいは再び減少に転じるのか注視しつつ、「第2次米子市まちづくりビジョン」の取組を推進する必要がある。

(4) 広域的な視点

周辺自治体においても2050年にかけて厳しい人口減少が予測されている。圏域全体の人口縮小は本市にも重大な影響を及ぼすため、今後は単独自治体の枠を超えた広域的な連携が一層不可欠となる。

（資料抜粋）

指標	数値
総人口	実績値：143,060人 ※前年比▲944人 (推計値：143,197人)
自然増減	▲987人（出生数966人、死亡数1,953人） ※前年比▲129人
社会増減	+40人（転入数4,711人、転出数4,671人） ※前年比+307人

2 令和7年度の実施状況の主なポイント【資料2、3、4】

(1) 基本方向

「第2次米子市まちづくりビジョン」で掲げた7つのまちづくりの基本方向（全51項目）において、およそ3分の2にあたる33件（約65%）の実組がA評価となり、着実な推移を示した。18件（約35%）の実組がB評価となり、A+評価及びC評価は0件（0%）となった。

<令和7年度評価一覧>

		A+	A	B	C	総数
1	交通基盤の充実と歩いて楽しいまちづくり	0	4	1	0	5
2	市民が主役・共生のまちづくり	0	8	4	0	12
3	教育・子育てのまちづくり	0	5	2	0	7
4	地産外商のまちづくり	0	7	5	0	12
5	歴史と文化に根差したまちづくり	0	2	2	0	4
6	スポーツ健康まちづくり	0	3	1	0	4
7	災害に強いまちづくり	0	4	3	0	7
	計	0	33	18	0	51
	割合	0.0%	64.7%	35.3%	0.0%	-

<評価の定義>

評価	定義
A+	実組の狙いを上回る顕著な成果が得られているもの
A	計画に基づき、着実に進捗しているもの
B	目標達成に向けた途上にあり、継続的な実組やフォローを要するもの
C	進捗が大きく遅れており、改善や見直しが必要なもの

(2) 数値目標

「第2次米子市まちづくりビジョン」で掲げた全24項目の数値目標において、以下の進捗状況を示した。

①進捗状況

- ・上昇傾向 16件（約67%）
- ・下降傾向 2件（約8%）
- ・横ばい 2件（約8%）
- ・傾向判定不能 4件（約17%）※調査周期等の関係から現時点では判定不能

②目標値の見直し（上方修正）

上昇傾向にある項目のうち、計画最終年度（令和11年）の目標値を既に前倒し達成しているものは、一部の目標値を上方修正することとしたい。

<上方修正する項目>

区分	項目		数値等
目標値を達成し、 <u>上方修正を行うもの</u>	資料 3 1-④	米子駅周辺エリア 1日あたりの滞在人数	(R7 数値) 2,588 (目標値) 2,400 ▶目標値を、 <u>2,400→2,800</u> に上方修正
	資料 3 5-①	米子城跡周辺の1日あたりの滞在人数	(R7 数値) 1,075 (目標値) 900 ▶目標値を、 <u>900→1,200</u> に上方修正
	資料 3 5-②	米子市公会堂周辺エリアの1日あたりの滞在人数	(R7 数値) 2,233 (目標値) 1,800 ▶目標値を、 <u>1,800→2,500</u> に上方修正
	資料 3 5-④	南部地区・史跡エリアの1日あたりの滞在人数	(R7 数値) 663 (目標値) 600 ▶目標値を、 <u>600→700</u> に上方修正
目標値を達成したものの、 <u>上方修正を行わないもの</u>	資料 3 1-①	米子空港発着の国内線の年間利用者数	(R7 数値) 631,284 (目標値) 620,000 (修正を行わない理由) 現在の利用者数増は国際線枠の暫定活用による増便(6便化)の影響が大きく、 <u>国交省はR9年度に利用枠の見直しをする予定とされていることから、この結果を踏まえ目標値の変更を検討することとしたい。</u>

(3) 令和7年度取組評価と今後の方向性

後期計画の初年度として、全体的には着実な進捗が見られるものの、一部の「まちづくりの基本方向」においては達成の途上にあり、今後の継続的な取組や改善策を講じる必要がある。

加えて、近年は急速な少子化や労働力不足の深刻化、物価高騰、都市部との格差、教育・子育てニーズの高度化など、市民生活や地域経済を取り巻く課題がより複雑化している。さらに、国の「地域未来戦略」をはじめとする新たな動きを的確に捉え、国の施策と連動した新たな視点での事業推進を図っていくことも重要となっている。

これら急激な情勢変化の中で「第2次まちづくりビジョン」に掲げる「まちづくりの基本方向」を着実に実行し、高い成果を上げていくためには、従来の取組を維持するだけでなく、社会ニーズに即した機動的な見直しと強化が不可欠である。米子市における地方創生を一層深化させ、市民が日々の暮らしの中で喜びや充実感を実感できる「住んで楽しいまちづくり」を一層推進していく。

3 「第2次米子市まちづくりビジョン」今後の改定方針【資料5】

当初、令和7年12月の国の総合戦略改定に合わせたビジョン改定を予定していたが、国において地方創生の枠組みを抜本的に見直す「地域未来戦略」および「人口戦略」の策定方針が示されたため、動向精査のため作業を一旦保留した。

本年7月に閣議決定された「地域未来戦略」および年内公表予定の「人口戦略」の観点を加味し、実効性の高い計画改定とするため、現在は先行して準備を進めつつ、国の正式発表等を踏まえ改定作業を行う方針としたい。

<現時点にて想定されるビジョン見直しのポイント>

項番	概要	追記方針
①	人口減少を正面から受け止めた上での施策展開	新たな国の「人口戦略」の旨を加味した重点ポイントの追加
②	地域未来戦略に係る「強い経済」の実現	民間投資促進、観光拡大など地場産業成長に係る視点の強化
③	「若者や女性にも選ばれる地域づくり」に向けたアプローチ	若者・女性の「働きがい」と「働きやすさ」を両立する各種取組の拡充
④	関係人口、二地域居住活用、国機能の拠点化へのアプローチ	関係人口創出、二地域居住、町家活用、ふるさと住民登録制度等の推進

<資料>

【資料1】米子市の人口動向について

【資料2-1～2-7】「第2次米子市まちづくりビジョン」実施状況の評価について

【資料3】「第2次米子市まちづくりビジョン」数値目標について

【資料4】「新しい地方経済・生活環境創生交付金」活用事業の効果検証

【資料5】「第2次米子市まちづくりビジョン」今後の改定方針について